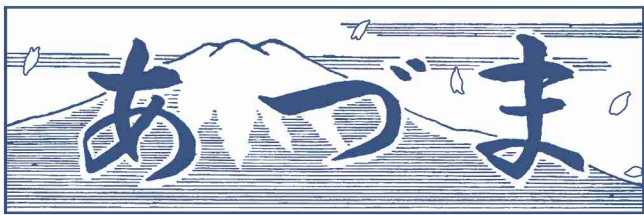


方面	東方 ZEPPIN!カップ結果 (1面)
1 師団	戦傷治療集合訓練参加 (3面)
12 旅団	HTC訓練 (4面)
1 施設団	鳥インフルエンザ災害派遣 (5面)
関東補処	処業計1次指示 (5面)



令和5年3月25日 第1058号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」  
総監要望事項「克己」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌  
発行所：方面総監部広報室  
住所：東京都練馬区大泉学園町  
専用線：8-37-2446



総監訓示を受ける栄養担当官や審査員



表彰式の様子

# 東方ZEPPIN!カップ 最優秀献立は三宿駐屯地

方面隊は3月2日、朝霞駐屯地において東方ZEPPIN!カップ表彰式を実施し、最優秀献立に三宿駐屯地の「鶏のかから揚げ三宿オリジナルソース」が選ばれた。

審査は予選と本選の2段階で行い、本選には書類審査による予選を勝ち抜いた三宿・横浜・勝田・小平・新発田の各駐屯地の献立が選出された。本選では隊員投票と実食による食味審査が行われ、食味審査では総監・幕僚長・幕僚副長のほか、東方懇話会・東方オビニオンリーダー・東校会の会員や栄養学の知識にたけた大学教授等が参加をし、審査員として採点した。



最優秀献立(三宿駐屯地)  
鶏のかから揚げ三宿オリジナルソース



優秀献立(横浜駐屯地)  
彩りしらす丼



優良献立(勝田駐屯地)  
勝田漫遊(まんゆう)ランチ



優良献立(小平駐屯地)  
小平びっくりバーグ



優良献立(新発田駐屯地)  
ヘルシー和風ハンバーグ

## 方面隊写真・動画コンテスト

## 優秀作品10点を公開

方面隊は写真・動画撮影技術向上と隊員の創作意欲増進を目的として、令和4年度東部方面隊写真・動画コンテストを実施した。コンテストは東部管内に所在する全隊員を対象として、令和4年1月から12月の間に撮影された作品の応募により行われた。

### 写真の部



最優秀賞「最終弾～全弾命中へ～」  
第12旅団司令部付隊 宮田1曹



特選「天高く」  
第1普通科連隊 伊東3曹



優秀賞「俺を見る」  
第13普通科連隊 深澤2曹



特選「この思い」  
第1施設大隊 田崎2曹



優秀賞「爆炎」  
東部方面航空隊 原田2曹



特選「未来へのたすき」  
関東補給処 田山2曹



優秀賞「撃て」  
第1師団司令部付隊 佐藤2曹

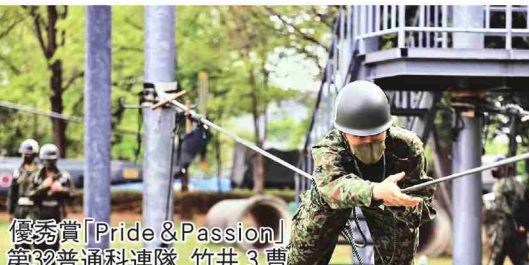
### 動画の部



最優秀賞「即応第1飛行隊」  
第1飛行隊 伊藤士長



優秀賞「眼/まなこ」  
第34普通科連隊 会田2曹



優秀賞「Pride & Passion」  
第32普通科連隊 竹井3曹

3月6日には総監部において表彰式が実施され、総監は受賞者に表彰状と副賞を授与し、その功績を称えた。表彰式において総監は「本コンテストは各部隊がしっかりと活動している様子を外に広く表現したいという思いをもって実施したが、今回も皆本心に素晴しい作品を作ってくれた。素から国民の信頼を獲得するためにも、写真や動画により正確な情報を伝えることは今後益々重要となる。次回は是非挑戦して、さらに良い作品を生み出して欲しい」と述べた。

なお写真受賞作品は東部方面隊公式ホームページ、動画受賞作品は東部方面隊公式YouTubeチャンネルに掲載中である。



動画はこちらから

# 日米共同統合防空・ミサイル防衛訓練 統合防空戦闘を演練



訓練に参加する第2高射特科群隊員

方面隊は2月17日及び20日から21日までの間、松戸駐屯地、下志津駐屯地、朝霞駐屯地及び古河駐屯地において、令和4年度日米共同統合防空・ミサイル防衛訓練（レジリエント・シールド、以下RS）に参加した。



第2高射特科群の動作を確認する空自隊員

本訓練は統合防空ミサイル防衛に関する訓練を実施して、自衛隊の統合運用能力及び日米共同対処能力の維持・向上に寄与することを目的として行われた。

RSは平成29年から日米共同統合訓練として実施され、方面隊は今回で4回目の参加となる。方面隊は本訓練を通じ、地域の平和と安定に積極的に貢献するための態勢と能力の維持・強化を図る。



救命処置の状況を確認する派遣隊員(右)

訓練ではシミュレーションによる弾道ミサイル対処、防空戦闘に係る統合運用及び日米共同対処を主要訓練項目として実施した。方面隊からは第2高射特科群が参加したほか、海上自衛隊、航空自衛隊、米軍等の各部隊が参加した。



隷下部隊に対し訓示をする總監

總監は「安保3文書が新たに策定され、我々は国民からの大きな期待、責任を負うこととなった。我が国を取り巻く厳しい状況下において、我々として必要とされることを認識し、即応態勢の充実、作戦遂行能力の向上、作戦基盤の充実の区分ごとに説明が行われた。

# 方面隊業務計画第2次指示 新たな年度へ向け總監企図を徹底

方面隊は2月28日、朝霞駐屯地において令和5年度方面隊業務計画第2次指示を実施した。

# ラオス能力構築支援 災害対処能力向上

方面隊は3月1日から9日までの間、ラオス人民共和国においてHA/DR（捜索救助・衛生）に係る能力構築支援を実施した。



總監への出国報告

本事業はラオス人民軍が実施するHA/DRに係る訓練の場に陸上自衛隊である教官要員を派遣し、練成訓練の実施要領等に関する指導及び

助言を行い、同軍の災害対処能力の向上及び自立の推進に寄与する事を目的としている。今回は旅団から8人が派遣されて、人命救助器資材の取扱い要領、ロープワーク、行方不明者の捜索要領、患者搬送要領等に係る練成訓練の学科及び術科の時間配分、教育要領、安全管理等を含めた実効性ある練成訓練の実施に向けた指導及び助言を行った。

安全保障環境に危機感を持ちつつ、陸自として、方面として、今後しっかりと我が国を守る態勢をとりなすてはならない。

これには今ある課題に対して今更以上「迅速」に、スピード感をもって取り組まなければならない。各部隊はそのような

危機感・認識を隷下部隊の一隊員に至るまで確実に共有するようにせよ」と述べた。

# 広報センター 多彩なイベントを満喫



航空機を見学する来場者



体験試乗後の記念撮影



来場者を魅了したファミリーコンサート

来場者からは「音楽隊の演奏は、迫力があって素晴らしい。駐屯地内の色々な施設が見れて楽しかった。風が気持ちよかった」「ヘリによる空からの眺めが最高だった」等の声が聞かれた。

ヘリコプター体験搭乗は東部方面航空隊の支援を受け、多用途ヘリコプター「UH-1J」により行われた。東京都内やさいたま新都心上空を飛行して、空からの景色を堪能した。

広報センター「りっくランド」は同施設及び朝霞駐屯地において、2月4日に「ファミリーコンサート」、19日に「車両体験試乗」、25日に「ヘリコプター体験搭乗」の各イベントを開催した。ファミリーコンサートは第1音楽隊による演奏で「ディスプレイランド・セラプレーション」「ユーミン・ポートレート」「青春の輝き」等、幅広い世代が親しめる曲を披露し、約150人の来場者が楽しんだ。

# 第1師団

## 戦傷治療集合訓練に32普連・1後支連が参加 総合優秀部隊に1後支連「日本一」に輝く



傷病者救助の状況(32普連)



傷病者治療の状況(1後支連)



VTCによる表彰式(32普連)



VTCによる表彰式(1後支連)

第32普通科連隊及び第1後方支援連隊は1月11日から19日までの間、衛生学校(三宿駐屯地)で行われた令和4年度戦傷治療集合訓練(衛生科技術競技会)に東部方面隊を代表して参加した。

本訓練は衛生科隊員の職務遂行に必要な識能及び部隊の戦傷治療能力の向上を図る目的で、学科試験及び術科試験(第1・第2ステージ)の競技会方式で行われた。第1ステージでは救急救命陸曹(中級救命救命・衛生救護員(初級衛生))の2人1コチームによる第一線地域における傷病者の救護を想定した状況を、第2ステージでは衛生救護陸曹(上・中級衛生)等を含む、7人1コチームによる連隊収容所における傷病者の治療を想定した状況で行われた。

結果、学科の部において32普連及び1後支連が優秀部隊として、術科の部において1後支連が優秀部隊に、総合では、第1ステージにおいて32普連が第2位に、第2ステージにおいて1後支連が第1位となり、総合優秀部隊として表彰された。本訓練に参加した32普連衛生小隊の岸2曹は

## 第2回部隊相談員養成訓練 心のオアシスとなる隊員の育成



伊藤副師団長説示



座学(心理幹部 桑本1尉)



傾聴技法の実技

師団は1月16日から19日までの間、練馬駐屯地において令和4年度第2回部隊相談員養成訓練を実施し、師団隷下部隊から部隊相談員(予定者を含む)32人の隊員が参加した。

訓練には衛生学校「心理」課程を履修する幹部学生も参加し、メンタルヘルス施策、各種ハラスメント対処、傾聴の基本技法、個人的及び組織的ストレス対処法等を教育して、軽易な相談対応及び各種専門窓口への繋ぎが実施できる部隊相談員を養成した。

参加した第32普通科連隊の茶屋2曹は「傾聴技法だけでなく、人の気持ちに寄り添うことの重要性を学んだ。仲間の不調や変化に気付く、隊員の最も身近な相談窓口になれるように成長していきたい」と今後の抱負を述べた。

「衛生競技会参加に当たり『日本一』を目指し、小隊一丸となって練成に励んだ。競技会参加時は第一線において緊急救命行為が必要な傷病者に対し、いかに早く的確に処置を行えるかを第一に考え活動した。惜しくも第2位という結果ではあったものの、傷病者に対し必要な処置を的確に実施してこれを救命することにも、救護員で参加した隊員も第一線の活動内容、観察・手技を身につけ救護能力の向上につなげられた。医療は日進月



統裁官訓示



1普連の指揮所



32普連の指揮所

## BCTC 1普連VS32普連 指揮及び運用能力の向上を図る

第1師団は1月30日から2月3日までの間、東部方面指揮所訓練センターにおいて、令和4年度第4回師団指揮所訓練(BCTC)を実施した。

訓練開始に先立ち、統裁官(師団長)は「戦闘力の組織化」状況に際した戦い方の創造」の2点を要望した。

訓練開始後、両部隊はいち早く敵情を解明し、指揮下部隊の現況を的確に把握して戦闘力の組織化を図るとともに、協同部隊との連携を密にし、総合戦闘力を最大限に発揮して戦闘を行った。

また戦況の推移に応じて刻々と変化する状況に對しては、適時性、先行性のある幕僚活動を実施するとともに、指揮の要訣を実践し、所望の成果を収めて訓練を終了した。

歩であり今後も自学研鑽に努め、衛生技術の向上に寄与したいと話した。

また1後支連衛生隊の並木士長は「真に患者を救える知識と技術の定着」を目標に取り組みました。学科練成では教範の暗記ではなく、その機序の理解に努め、術科練成では処置の速度とその評価に着目し練習を重ねました。選手、指導部をはじめ、1後支連衛生隊が一丸となり東部方面隊の代表として勝ち取った

白星をつれしく思います。「真に患者を救える知識と技術の定着」が1後支連衛生隊の伝統として引き継がれるよう、その一助となるべく今後も研鑽を積んでいきます」と話した。

## 小野田政務官による予備自衛官訓練視察 予備自衛官の現況を確認

2月6日、小野田防衛大臣政務官は、朝霞駐屯地において第1施設大隊が担任した予備自衛官招集訓練を視察・体験した。その後、訓練隊の事務所や予備自衛官の居室、被服倉庫、地本事務所等の施設を巡視した後、予備自衛官6人、地本担当者、訓練担任部隊担当者等と懇談し、激励した。

するとともに、政務官自身も本訓練の一部を体験した。その後、訓練隊の事務所や予備自衛官の居室、被服倉庫、地本事務所等の施設を巡視した後、予備自衛官6人、地本担当者、訓練担任部隊担当者等と懇談し、激励した。



第1施設大隊、予備自衛官と集合写真(政務官(前列右から4人目))



政務官は訓練用模擬銃を携行  
予備自衛官とともに訓練を体験する政務官(左から3人目)

第12旅団

# 日出生台で実動對抗演習 増強2普連が防御戦闘



戦車に関する教育を受ける第2普通科連隊

旅団は1月28日から2月16日までの間、日出生台演習場において実施された令和4年度北海道トレーニングセンター訓練（HTC訓練）に第2普通科連隊基幹の部隊を参加させ、戦車部隊を含む諸職種協同の実動對抗演習を通じて、指揮幕僚活動及び諸職種協同等の練度の向上を図った。

HTC訓練には2普連のほか配属部隊として第12特科隊、第12ヘリコプター隊、第12後方支援隊、第12高射特科隊及び第12施設隊の一部を、また西部方面戦車隊、第1施設団、東部方面航空隊の一部が協同部隊として参加した。

旅団は1月10日から2月13日までの間、関山演習場及び同周辺スキー場において第2普通科連隊長を担任官とし、部隊スキー指導官の識能を向上させ資格を更新するとともに、部隊スキー指導官認定試験受験者に対して部隊スキー指導官として必要な識能を修得させることを目的とし、令和4年度方面部隊スキー指導官練成・養成集合訓練を実施した。

訓練は豪雪地域の妙高高原で実施されたため、高原で実施されたため、度々吹雪きに見舞われる中、被教育者に対して練成訓練を実施し、約1週間わたる練成において識能を向上させ資格を更新した。

また養成訓練では認定試験受験者に対し、約2週間わたる練成を経て必要な識能を修得させ、新たに32人の部隊スキー指導官が誕生した。

旅団は1月19日から22日までの間、群馬県前橋市における鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣を実施した。

旅団は相馬原駐屯地に所在する第48普通科連隊を派遣し、鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣は、1月上旬に新潟県でも実施しており、その教訓を生かして先行的に準備や調整ができた。22日午前5時までに約15万羽の殺処分支援を完了し、活動を終了した。

旅団は度重なる災害派遣に際しても、準備を怠ることなく対処するとともに、あらゆる事態に対応するため日々各種訓練に精励する。



現地指導において隊員を激励する旅団長(左)

旅団は1月10日から2月13日までの間、関山演習場及び同周辺スキー場において第2普通科連隊長を担任官とし、部隊スキー指導官の識能を向上させ資格を更新するとともに、部隊スキー指導官認定試験受験者に対して部隊スキー指導官として必要な識能を修得させることを目的とし、令和4年度方面部隊スキー指導官練成・養成集合訓練を実施した。



滑降技術の練成を実施する隊員

旅団は1月16日から25日までの間、相馬原駐屯地、相馬原飛行場及び相馬原演習場において、第30普通科連隊長を担任官とし、旅団隷下各部隊から参加した空中機動指導官に対し、令和4年度空中機動指導官練成訓練を実施した。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。



金管5重奏を披露する第12音楽隊の隊員

第12音楽隊は1月29日、高崎芸術劇場音楽ホール（群馬県高崎市）において、室内楽演奏会を実施した。

本演奏会では、普段は公開しないリハーサル風景を募集対象者等に公開した。

リハーサルを見学した学生からは「自衛隊の音楽隊を目指したい」といったうれしい声も聞かれた。また本公演を鑑賞した人からは「本当に素晴らしい演奏でした」「感動で胸がいっぱいです」とこちらも盛況な様子であった。

12音は今後も演奏技術の研鑽を重ねるとともに、機会を捉えて演奏を披露する。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

## 令和4年度方面部隊スキー指導官練成・養成集合訓練 吹雪く妙高で識能を錬磨

旅団は1月10日から2月13日までの間、関山演習場及び同周辺スキー場において第2普通科連隊長を担任官とし、部隊スキー指導官の識能を向上させ資格を更新するとともに、部隊スキー指導官認定試験受験者に対して部隊スキー指導官として必要な識能を修得させることを目的とし、令和4年度方面部隊スキー指導官練成・養成集合訓練を実施した。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

## 令和4年度旅団空中機動指導官練成訓練 指導官資格保持者のさらなる練度向上

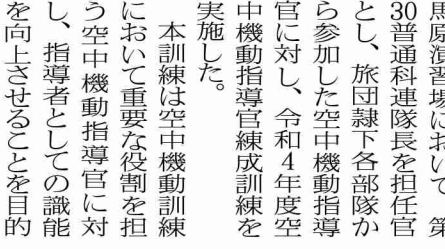
旅団は1月16日から25日までの間、相馬原駐屯地、相馬原飛行場及び相馬原演習場において、第30普通科連隊長を担任官とし、旅団隷下各部隊から参加した空中機動指導官に対し、令和4年度空中機動指導官練成訓練を実施した。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

## 13普連 一般幹部候補生着隊 手厚い歓迎を受ける

第13普通科連隊は1月27日、新たに配置された一般幹部候補生3人の着任に伴う歓迎行事を実施した。

着隊後、何も知らされていない3人は、素養試験開始の指示とともに小銃が渡され、ハイポートからスタートした。先輩幹部に先導され、大声で歩調をとりながら周囲から応援を受けつつ、駐屯地を



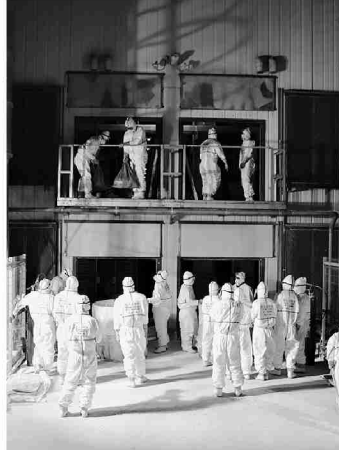
機外搭載訓練を実施する隊員

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。

旅団は引き続き空中機動訓練を実施するとともに、その教育訓練の指導官を育成するとともに、各部隊・各隊員の練度向上に努める。



夜を徹し作業に従事する派遣部隊

旅団は度重なる災害派遣に際しても、準備を怠ることなく対処するとともに、あらゆる事態に対応するため日々各種訓練に精励する。

第1施設団

# 鳥インフルエンザ災害派遣

## 民生の安定に寄与

施設団は2月3日から15日までの間、茨城県八千代町及び坂東市で発生した鳥インフルエンザ災害派遣を実施した。

2日には八千代町で、9日には坂東市で、高病原性鳥インフルエンザ陽性が確認され、茨城県知事は陸上自衛隊施設学校

長に対して災害派遣を要請した。分区担任部長である施設団長は、同要請を受け第101施設器材隊及

び第102施設直接支援大隊を基幹として古河駐屯地に所在する第301

隊、第301高射直接支援中隊第1直接支援小隊に加え施設学校、武器学校及び第1後方支援連隊から所要の要員の配属を受け、災害派遣部隊を編成した。

派遣部隊は約180人の24時間態勢で、合計約105万羽の殺処分支援を実施して8日には八千代町、15日には坂東市の派遣活動を終了した。



昼間作業の状況(八千代町)



夜間作業の状況(八千代町)



坂東市の現場を視察する師団長(右から2人目)

隊、第301高射直接支援中隊第1直接支援小隊に加え施設学校、武器学校及び第1後方支援連隊から所要の要員の配属を受け、災害派遣部隊を編成した。



訓示を行い企図の徹底を図る処長

関東補給処

### 処業務計画1次指示

# 処長企図の徹底図る

関東処は1月24日、霞ヶ浦駐屯地において「令和5年度関東補給処業務計画1次指示」を実施して処務運営に必要な準拠を付与するとともに、処長企図の徹底を図った。

隊務を「作戦」と捉えることに留意せよ。また兵站の実効性向上のため、実行可能な計画の作成、計画を遂行し得るための組織・個人の能力向上及

び意識の進化、すなわち「態勢の進化」が引き続き不可欠である。各部、各支処長等は隊員に対して「自らの言葉」で具体的に指導しつつ、「誇りと情熱」を持って令和5年

度の処務を遂行すること強く要望する(要旨)と訓示を述べた。関東処は処長、副処長及び各部・各支処長等を核心に、令和5年度へ向け着実な準備を進める。

QR code and social media links for Camp Kasumigaura. Includes text: 関東補給処公式ホームページ https://www.mod.go.jp/gsd/eae/eadep Twitter フォロワー募集中!!

## 発災時の偵察能力向上へ 移動式クロクラ操作要領を教育

関東処は2月22日、霞ヶ浦駐屯地において移動式クロクラ操作要領を教育するとともに、偵察班操作マニュアルに基づく使用統制を徹底すること、移動式クロクラを活用した偵察能力を向上することを目的として、

本教育は災害対処時における本処各部の偵察班通信手要員に対し、移動式クロクラの操作要領を教育するとともに、偵察班操作マニュアルに基づく使用統制を徹底すること、移動式クロクラを活用した偵察能力を向上することを目的として、

担任した装備計画部は災害対処時に備え、事前に厚木基地及び富士地区等の地域、また当該地域へ至る経路上における通信状況等の検証を昨年8月から重ね、操作マニュアルを作成した。

## 方面施設科職種合同訓練 練度を向上し技術を共有

施設団は1月23日から2月3日までの間、東富士演習場において令和4年度方面施設科職種合同

訓練を実施した。本訓練は施設科職種に共通して必要な施設技術のうち、特に東部方面隊

の作戦遂行のために施設科部隊として取り組むべき

課題及び交通作業の練度向上について検証・演練

2日、総監の現地視察を受け、訓練の実施状況について報告するとともに、訓練部隊に対する激励を受けた。

化学部は1月30日から2月10日までの間、化学部工場内において催涙剤の充填作業を実施した。

同部は陸自の生産計画に基づき、催涙剤を催涙球(球体)へ充填する作業等を担任している。これは自衛隊の中で唯一催涙剤の合成及び充填等の取り扱い技術を有している化学部のみが実施できる業務である。

送風気密服を装着した隊員は催涙剤を球体へ充填した後、計量及び塞栓の取り付けという工程

の一連の作業を行った。特に計量の作業において、催涙剤と球体を合わせた重量が厳密に定められており、隊員は細やかな調整を実施した。

2月2日には処長が作業工程を現地で指導するとともに、作業に当たる隊員を激励した。

昨年9月に配置された初作業となった高橋1士は「尊敬する父と同じ補給処で勤務できる喜びを感じつつ、父を超えられよう頑張ります」と今後の意気込みを話した。

後段では実機を使用して入力や設定要領等の反復演習を行い、前段教育で付与された知識の定着や操作要領の練度向上を図った。

関東処は本教育の成果を反映し、引き続き不測事態等発生時への備えを万全にしてい



交通作業



混合橋の架設(パネル橋)



滑走路の被害復旧



総監視察(右)



工場内において作業を行う化学部隊員

塞栓の取り付けを視察する処長(右)



実機で操作要領を演習する被教育者

定設要領を研修する被教育者

### 後支隊

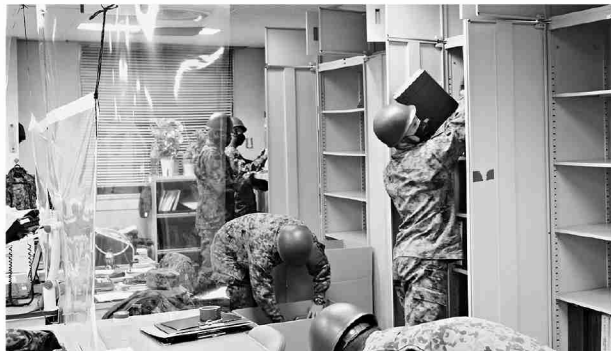
## 強靱な野戦兵站部隊を目指して 令和4年度第3次後方支援隊訓練検閲



中型ドーザ整備の指示をする隊員(第101全般支援隊)



即自隊員に対する戦力化(第302弾薬中隊)



補給カタログの梱包(第101全般支援隊)

東部方面後方支援隊は1月27日から2月7日まで、霞ヶ浦駐屯地及第302弾薬中隊に対する訓練検閲を実施した。本検閲は「本格的陸上作戦(着上陸侵攻対処)

における野戦兵站部隊としての行動」を検閲課題として評価・判定するとともに、首都防衛における兵站支援を見据え、検閲を統裁した。101全支は作戦準備命令を受け、駐屯地において、自隊の出動準備に並行し、被支援部隊装備品に対する事前点検、住民混在下での車両回収を行った。その後、北杜FSA(相馬原演習場)に展開するとともに、現地整備に当たっては、脅威の度に応じた現地整備班を派遣する等、支

援任務を完遂した。302弾中は招集した即応予備自衛官に対し、実爆破を含む特技訓練を実施する等、戦力化を図った。北杜FSAにおいては、ドローン偵察に引き続き、敵遊撃部隊の襲撃等に対応しつつ、弾薬補給業務を継続し、支援任務を完遂した。後支隊は本訓練検閲において所期の成果を収めるとともに、引き続き、練成訓練を積み重ね、「明日の事態」に備える強靱な野戦兵站部隊の育成を目指す。

関連17面

## 立川マラソンに向け協定を締結

### 立川駐屯地



協定締結後の記念撮影

立川駐屯地は2月7日、駐屯地において「立川シティハーフマラソン2023協定書調印式」を実施した。式では立川市の清水市長、駐屯地司令が駐屯地の敷地利用などに関する協定を結んだ。懇談において清水市長は「今年も幅広い年代のランナー(10キロ)」と語り、

人に楽しんでほしい」と話し、また駐屯地司令は「安全第一で参加者が走れるようサポートしたい」と語った。駐屯地で支援するのはハーフマラソン(21.0975キロ)と小学生1〜3年生と保護者がペアで参加する「ファンラン(10キロ)」で、選手らは飛行場地区をスタート後、正門を通過し市街地を駆け抜け、昭和記念公園内でゴールする。駐屯地は大会が安全で円滑に進行できるよう支援し、これからも信頼される駐屯地となれよう地域に貢献していく。

### シ通群

## 25歳未満満の部で優勝 団体戦部隊選抜の部で優勝

### 通信科職種銃剣道大会



25歳未満の部で健闘した初出場の小湊士長(左)



部隊選抜の部で先鋒を務めた森部3曹(左)



群長(中央)を囲んだ大会後の記念撮影

東部方面システム通信群は2月22日、市ヶ谷駐屯地で実施された令和4年度通信科職種銃剣道大会に参加した。本大会は平成23年に銃剣道の場を活用した通信科職種部隊間の交流を目的に、最先任上級曹長主体の事業として検討され、平成24年から開始され、今年で11回目を迎えた。

群は第1回大会から参加し、平成29年の第7回大会で初優勝、続く第8回大会で2連覇を達成したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大会中止、出場辞退により今年大会が4年ぶりの出場となった。初開催となった団体戦25歳未満の部は、トーナ

### 情処隊

## 任務完遂に対するあくなき執念 初動対応に資する訓練を実施



情報処理要領を演練・確認する隊員

東部方面情報処理隊は1月23日から26日までの間及び2月21日・22日の両日、朝霞駐屯地において、各種事態における初動対応能力の向上を目的とした隊訓練を実施した。2回の訓練ではそれぞれ異なる事態を想定し、隊としていかに迅速に行動して方面隊の各種活動に寄与できるかについて実員をもって演練し、能力向上を図った。訓練の最後に実施した検討会では、各隊員がより迅速に効果的に初動対応するための意見を積極的に述べるなど、各種事態における初動対応に対する意識についても向上させることができた。情処隊は任務完遂に対するあくなき執念をもって、引き続き、日々の業務、訓練にまい進する。

メント4試合を勝利して初優勝を飾り、部隊選抜の部に対しても勢いをつけた。団体戦部隊選抜の部は出場全チームとの総

当たりで実施され、4試合を全勝して4年ぶり3回目の優勝を飾った。今大会は今年度の大会開催に尽力いただいた関係者に感謝するとともに、

大会を通して培った関東・甲信越に所在する通信科部隊との絆をさらに深めて、各種任務にまい進する。

# 各地で小学生にキャリア教育

## 自衛隊の魅力を発信

### 神奈川県

自衛隊神奈川県地方協力本部上大岡募集案内所は



児童に自衛隊の活動を紹介する隊員(神奈川県)

1月24日、横浜市立根岸小学校において授業の一環としてキャリア教育を行い『自衛官の仕事』と題して講話を行った。

授業には6年生91人の児童と教員6人が参加し、自衛隊の活動内容や豊富な職域等を紹介しながら、児童たちに将来の職業選択の重要性や今からの学習への取り組み方、人とのつながりや絆の大切さ

について考えるきっかけになるように講話内容を工夫して実施した。

『自衛隊とはどんな仕事なのか』『自衛隊の災害派遣での活動の状況』『組織力について』などスライドや動画で説明を行うと、児童たちは真剣な眼差しで見入ったり、熱心にメモを取ったりしていた。

自衛隊のイメージが『戦闘』だけだった多くの児童たちは、さまざまな活動や幅広い職域に驚いていました。

前半は高地1尉が自衛隊の魅力、やりがいについて説明し、多くの児童は熱心に聞き、質問する姿が見られた。

後半は模擬体験学習として「災害時にケガをした成人男性を児童10人で毛布1枚を使い、どう搬送するか？」という内容で行った。児童は6グループに分かれてそれぞれ

の意見を出し合い、最後に4人の自衛官が搬送方法を展示すると見学した児童、教員からは感嘆の声が挙がった。

### 新潟県

自衛隊新潟県地方協力本部は1月16日に新潟市立巻南小学校において『自衛隊キャリア教育』を行った。

本教育は同校長から「児童へ自衛隊に対する理解を深めたい」との要望を受け、実現したものである。

当日は高地1尉、榊原2空曹、原3曹、本部広報室 豊田3空曹が、同校6年生の児童と教員60人に教育を行った。



毛布での搬送を学ぶ児童たち(新潟県)

教育が終わると、児童から「スライドを使った説明が面白くてわかりやすかった」「毛布を使って4人で大人を運べるのができ、驚いた」、教員からも「児童も自衛隊に興味を持ってもらうことができて良かった。また機会があれば是非お願いしたい」との感想が聞かれ、後日、児童からは感想を書いた手紙が届く等、高い広報効果があった。

各地本は今後も、さまざまな形で自衛隊の魅力発信する広報活動を積極的に進めていく。

## 訓練所感

### 第101全般支援隊 整備中隊

東部方面後方支援隊 第101全般支援隊 3等陸尉 村瀬 佑介



### 後方支援隊訓練検閲を受閲して

生き残って任務を完了する気概の醸成に尽力しました。検閲は前段4日間を駐屯地において、応急出動準備を実施しました。私自身初めての経験であり、戸惑いはありましたが、事前のCPXにおいて携行工具類の選定及び追送品等のリスト作成をしていくこともあり、期間内に整齊と出動準備を完了することができました。また、その間の整備支援にも適切に対応することができました。後段の7日間については相馬原演習場においてFSAにおける整備等を実施しました。寒さが厳しく、隊員のメンタル及びフィジカルを小隊陸曹と共に把握する中で、入浴の機会があり、隊員のモチベーションが回復するのを目的に、戦力回復の大きさを改めて実感しました。この検閲を通じ、武器科幹部として今まで培ってきた知見を全力で発揮できたと思われます。

## ある！ある！自衛隊

byともえ



### 栃木県

## 全日本短剣道大会 2つの準優勝を獲得

自衛隊栃木地方協力本部は2月12日、日本武道館において開催された第22回全日本短剣道大会に、選手として総務課所属の佐々木2曹を派遣した。

個人戦と団体戦に臨んだ。目標は「入賞」であったものの気合十分で勝ち進み、個人戦・団体戦ともに「準優勝」の結果を残した。また団体戦は栃木女子選抜チームとして佐々木2曹、第12特科隊鈴木3曹ほか1人の計3人で戦い、これまでで一番良い成績を残すことができた。さらに男子個人戦では12特の隊員2人が年齢別の試合でそれぞれ優勝を獲得し、栃木県勢は大健闘した。

佐々木2曹は栃木県在籍中の各種大会で14枚の賞状を獲得し、仕事と競技の両立を果たしている。「競技結果を栃木県本に、多数の『いいね』を獲得したことも励みになった」と述べた。

栃木県本はスポーツ競技等においても自衛隊をPRできるような活動していく。



試合に臨む佐々木2曹(右)

### 静岡県

## 静岡・山梨・長野 3個地本が相互研修で交流

自衛隊静岡地方協力本部は2月20日・21日、静岡本本部庁舎、静岡募集案内所(静岡市)、富士地域支援センター(御殿場市)において、山梨、長野の業務に役立てるべく、3個地本が相互研修を行った。

本研修は総務・募集・援護業務の担当者がそれぞれ研修や意見交換を行い、今後の業務に役立てるべく、3個地本が相互研修を行った。

初日は総務・募集業務担当者が本部庁舎、援護業務担当者が富士地域支援センターにおいて、静岡本本の概要や業務について説明を受け、相互に意見交換を行った。



各地本の交流

自衛官が民間企業に再就職するための支援を行う援護業務では、静岡県内の求職支援施設を活用して部外講師による就職相談やセミナーを開催していること、任期満了で再就職する35歳以上の隊員への求人が豊富なことなどに強い関心が集まった。2日目は静岡市葵区と駿河区を担当する静岡募集案内所を訪れ、自衛官業務改善に努めていく。

# 最先任 上級曹長

## 「隊員は部隊の宝」 第1高射特科大隊 後藤 靖正 准陸尉

全国の准曹士の皆様、私は第1高射特科大隊第6代最先任上級曹長後藤准尉です。よろしくお願ひします。

令和2年3月26日に部隊改編され、最新の対空

戦闘指揮統制システムが配備され、対空作戦の骨幹を使命とした部隊で勤務しております。

私をはじめ皆さんにおいても、技術や戦術が日進月歩の状況にあり、喜



びと不安、期待と危惧、いろいろな思いと戦っている昨今ではないでしょうか。

有名な儒学者の言葉で「一粒の米」を紹介したいと思ひます。「米びつから米を一粒取っても、入っても量の変化はわかりませんが、穀を破り、さらに

「隊員は宝」です。未来を担い、チャレンジ精神にあふれる若者が活躍する活力満ちた部隊を創り上げていきたいと思います。

最後になりますが、隊員育成は指揮官の補佐に繋がるものです。まずは隊員の幹の部分に十分に育て、そして健全な部隊に繋げていくため、ロングスローペースで励む所存です。

## オピニオン 一言申し上げる 東方オピニオンリーダー 栗原 雄一



をわれわれの力で発信して外側に波及させていくといった役割が十分に果たせなかったのが残念です。

現在、日本を取り巻く環境は非常に厳しくなっています。ロシア問題、台湾有事、北朝鮮のミサイル問題など大変深刻な状況であると考えています。このような時代だからこそオピニオンリーダーとして得られた情報を活用し、安全保障について啓蒙していくことがより一層重要となります。私自身はここで任期は終わりますが、コロナの感染状況を見据えつつ、引き続き啓蒙活動に尽力していきます。

## 「不撓不屈」 東部方面システム通信群 前田 ルナ 3等陸曹

友人の父が自衛官で、幼いころからずっと興味がありました。高校3年の夏休みに職業体験に参加して自衛隊の職業に触れ、体を動かしてやりがいのある職業に就きたいという思いが芽生えて、31年4月に入隊しました。

通信連隊小隊のネットワーク陸曹として、野外に展開する部隊へ提供するシステム通信回線を構成・維持・運営しています。また今年初めて群の拳法集合訓練に参加させていただき、東方の予選で準優勝して、全自衛隊拳法選手権にも出場することができました。

通信連隊小隊のネットワーク陸曹として、野外に展開する部隊へ提供するシステム通信回線を構成・維持・運営しています。また今年初めて群の拳法集合訓練に参加させていただき、東方の予選で準優勝して、全自衛隊拳法選手権にも出場することができました。

力となり、方面隊のシステム通信の一翼を担っていきけるよう頑張ります。

た柔道場に部外指導者として来ていた自衛官の方に進められ、入隊しました。

指して普通科を選びました。昨年、目標であったレンジャー隊員になることができました。

感を持って全力で訓練に臨んでいます。

ので、私生活を充実させるべく日々楽しく過ごしています。また積雪寒冷地であることから冬にはウィンタースポーツも楽しんでおり、公私ともに充実した生活を過ごしています。

異動の時期である。小官は、現在、単身赴任中。家族は数年前に購入した自宅です。活している。

かけられた時の何気ない会話の一言だった。ついに来たかと、思わず妻と目を合わせた。当時の勤務地も2年目が近づき、息子なりに何か感づきがあったのかもしれない。気づけば、小学校は3校目。楽しそうに学校に通う姿をよく見ている。それまでは、友との別れもあっさりとした感じ。それがなくなった。しかし、翌年の春の異動で、その場所を離れる時の息子は、口を真一文字にして何かに耐えていた。仲の良かった友達一人からもらった文房具を片手に握っていた。自分の人生だけでなく、子どもの人生のことも考えないといけない時期だと思った。

今月のフェアレディは、東部方面システム通信群第304中樞交換通信中隊でネットワーク陸曹をしている前田ルナ3等陸曹です。前田3曹は神奈川県出身の22歳で、高校時代はボクシングで汗を流し、全日本女子選手権高校生以下のライトウェルター級で優勝の実績もある実力者でした。

## 38回全自衛隊拳法大会



今月の東方男児は、第2普通科連隊の矢崎3曹です。矢崎3曹は福井県出身の26歳、3月16日に重迫撃砲中隊から新編された重迫撃砲中隊に所属しています。



部隊格闘指導官になりたいと考えています。幼少期より柔道を習っており、柔道で培った技術と体力を生かしつつ、新基準の格闘技術を修得し、隊員への普及を通じて部隊の精進に貢献したいと考えています。また私生活において結婚も決まっていますので、仕事と家庭を両立できるよう、より一層努力していきたいです。

編集後記  
異動の時期である。小官は、現在、単身赴任中。家族は数年前に購入した自宅です。活している。

かけられた時の何気ない会話の一言だった。ついに来たかと、思わず妻と目を合わせた。当時の勤務地も2年目が近づき、息子なりに何か感づきがあったのかもしれない。気づけば、小学校は3校目。楽しそうに学校に通う姿をよく見ている。それまでは、友との別れもあっさりとした感じ。それがなくなった。しかし、翌年の春の異動で、その場所を離れる時の息子は、口を真一文字にして何かに耐えていた。仲の良かった友達一人からもらった文房具を片手に握っていた。自分の人生だけでなく、子どもの人生のことも考えないといけない時期だと思った。